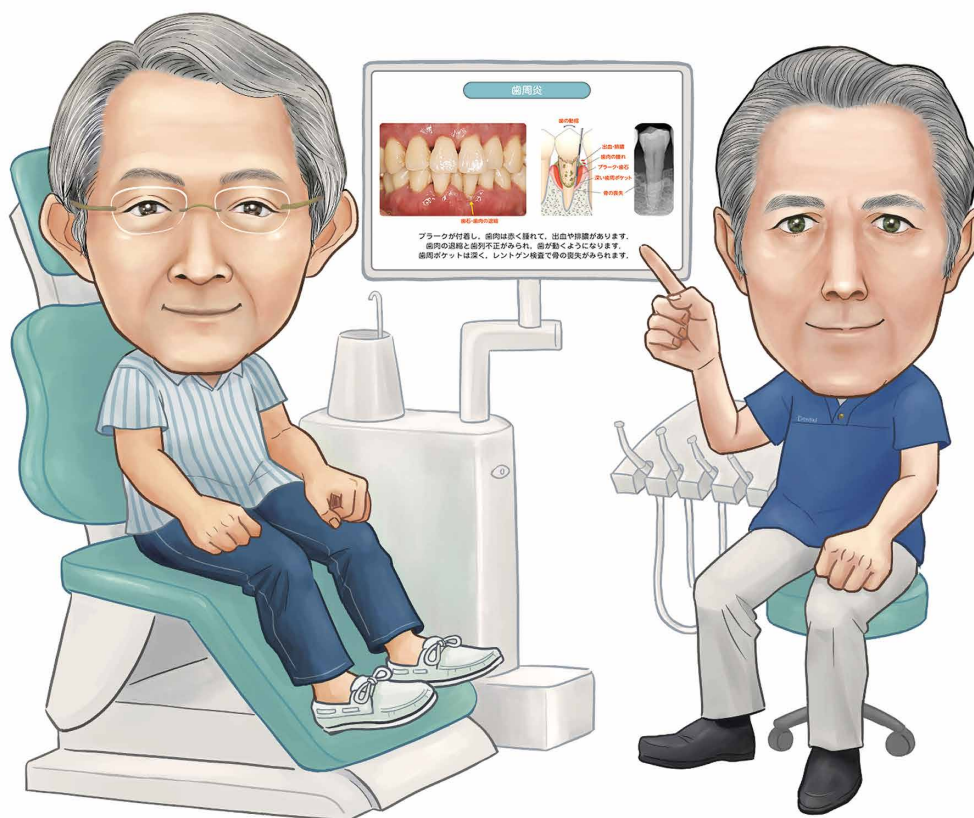


Dr. 弘岡に訊く
臨床的ペリオ講座
Special Issue

歯周病と インプラント周囲病変の 患者説明ブック

チェアサイドでそのまま使えるカード付

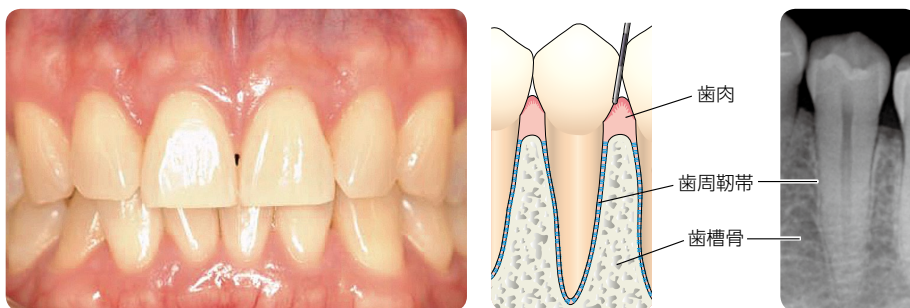
弘岡秀明・佐藤博久・Giovanni Serino 著



1

歯と歯周組織

● 健康な歯ぐきは、どのように見えるでしょうか？

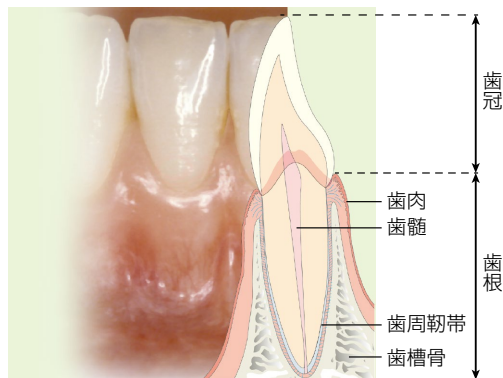


■ 健康な歯周組織 付録01

プラークの付着や出血はなく、レントゲン上で骨の喪失もみられません

健康な歯ぐき（歯肉）は、薄いピンク色で引きしまっており、ブラッシングでは出血しません。みがき残しがあると、歯の周りの歯肉が赤く腫れてくることがあります（歯肉炎といいます）。また、強すぎる力でブラッシングしたり、歯間ブラシの使い方を間違っていたりすると、歯ぐきが傷つき下がってしまうことがあるので、正しい方法を教わりましょう。タバコを吸っている人は、歯だけでなく歯ぐきも黒ずんで見えることがあります（⇒15ページ）。

● 歯を支えているのは歯周組織です



■ 健康な歯周組織の構造 (弘岡 2010より)

歯は、歯冠（目に見える歯の上の部分）と、歯根（歯ぐきに埋まっている根の部分）からなり、歯の中央には歯髄（血管や神経が存在し、俗に“歯の神経”と言われます）があります。

歯根は骨（歯槽骨）に取り囲まれ、さらに歯ぐき（歯肉）で覆われています。歯根と歯槽骨の間には歯周靭帯という線維の束があり、噛む時の力を受け止めるクッションのような役割があります。歯周靭帯は血管が豊富で、歯の周りの組織に酸素や栄養を与えています。歯を支えるこれらの組織を“歯周組織”と言います。歯周病は、歯についた細菌のかたまり（プラーク）の中の細菌の毒素から身体を守るために生体が反応し、歯周組織に炎症が起こって破壊されていく病気です。

説明の
目的は？

患者さんに健康な歯肉の状態を知ってもらうことで、変化が見られた時には歯科医院を受診する、という行動へつなげてもらいましょう。歯を支える歯周組織の大切さも伝えましょう。

患者さんに説明する前にここまで知っておこう！

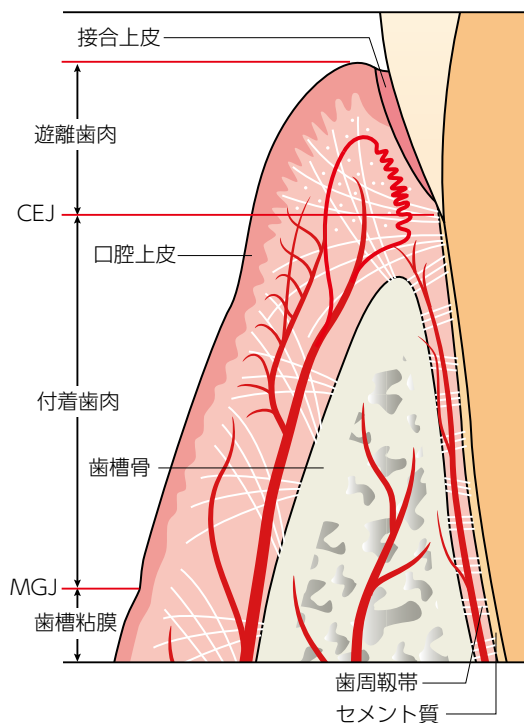
■ 歯周組織の構造と特徴を理解して、臨床に活かしましょう

歯を支える4つの組織（歯槽骨、歯肉、歯周靭帯、セメント質）を合わせて歯周組織と呼びます。歯根はセメント質で覆われ、歯周靭帯によって歯槽骨に固定されており、これらの歯本来の支持組織は歯肉（上皮）に覆われて守られています。

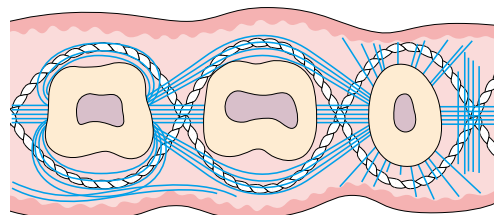
歯肉は角化しているため、多少歯ブラシが当たっても痛くありません。それがブラッシングのしやすさにつながっていると同時に、オーバースクリーニングに気づきにくい原因でもあります。歯のエナメル質に接する接合上皮は4～6日で細胞がターンオーバーし（口腔上皮は6～12日）、どんどん新しい細胞に入れ替わることによって、細菌に対する抵抗性を維持しています。

歯の周りは血管と線維が豊富です（ここがインプラントと大きく異なる点です）。歯周靭帯は、感覚受容、開口反射などの役割を担っています。また、歯周靭帯内には毛細血管が走行しており、セメント細胞などに栄養を供給しています。血液中には白血球が存在し、病原性微生物に対する防御を行っています。

歯の周りの線維はさまざまな方向に走行することで、歯を支持しています。プラーク（バイオフィルム）による炎症で歯の周りの線維層が分断されると、歯が動揺し、歯牙移動が起こります。



■ 歯周組織の構造

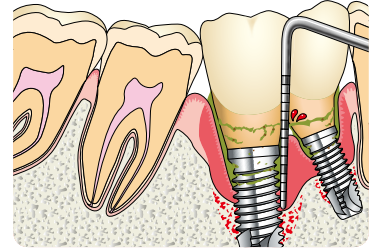
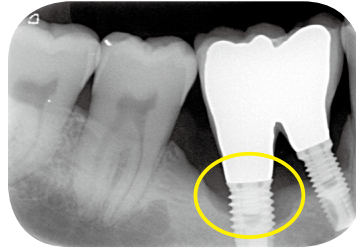
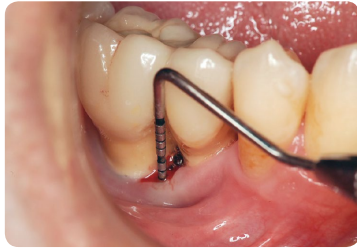


■ 歯周靭帯の主線維の走行

炎症が起こると、線維の部分に炎症細胞が多くなり、線維が分断されて維持力が弱まり、歯の動揺を招くようになります（Rateitschak 1989より）

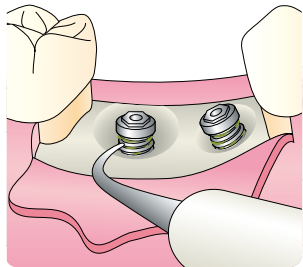
インプラント周囲炎の治療

- インプラント周囲炎の治療では、外科処置が必要になる場合が多いです



■ インプラント周囲炎 付録11

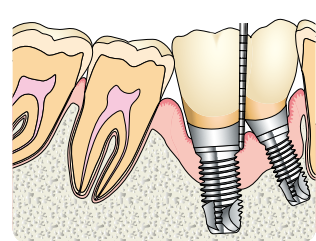
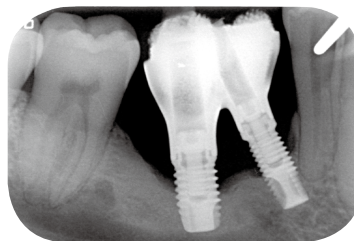
45歳の男性患者さん。プラークが付着し、インプラント周囲からの出血や排膿がみられます。ポケットは深く、レントゲン検査で骨の喪失がみられます



上の写真の患者さんはインプラント周囲炎と診断されたため、外科処置を受けました。麻酔をして歯ぐきを切開し、インプラント表面を超音波の器具できれいにしました



外科処置後は、病気が再発しないよう定期的にメンテナンスを受けることが大切です。メンテナンスではセルフケアの方法を毎回チェックします

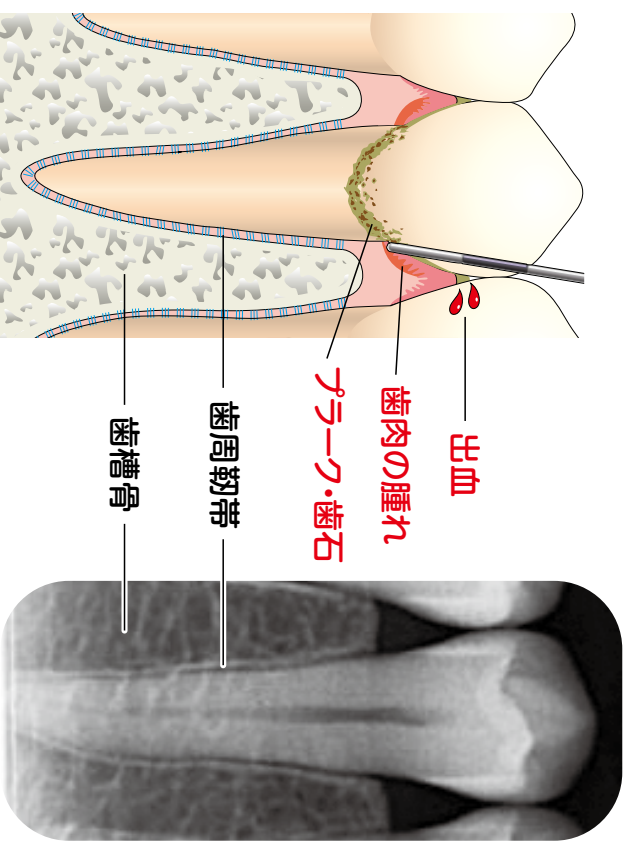
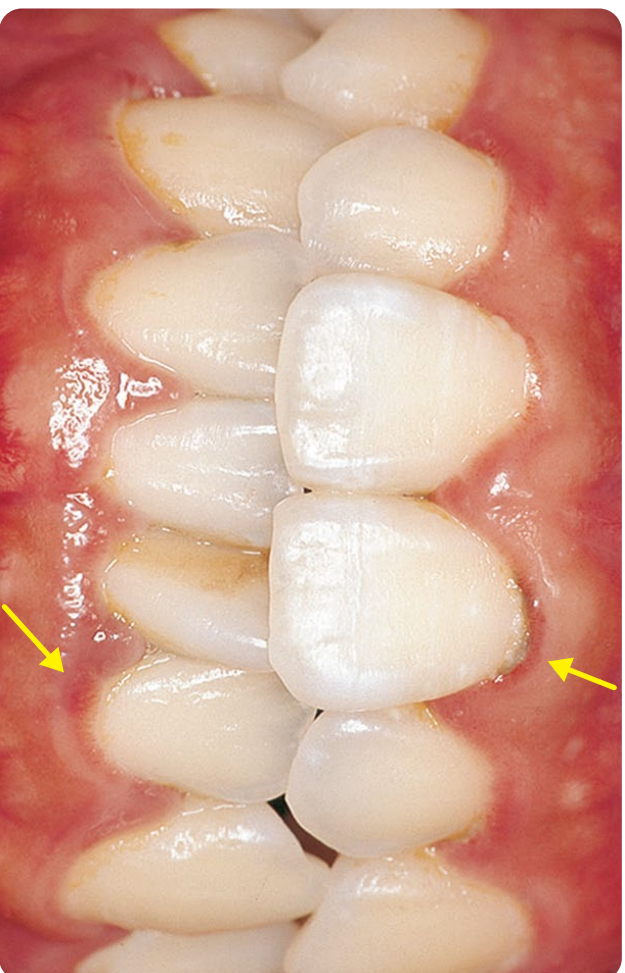


治療から2年後。出血と深いポケットはなくなり、状態は安定しています

■ インプラント周囲炎の治療（外科処置）

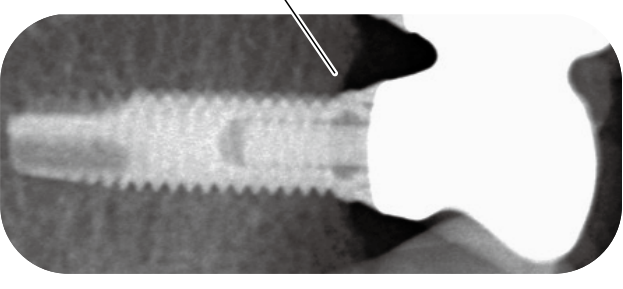
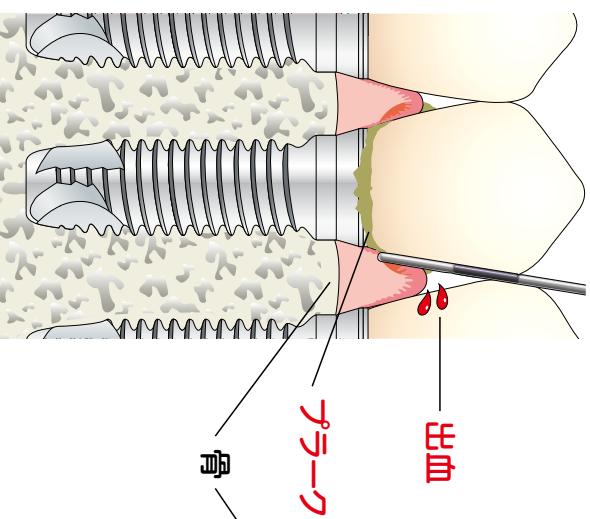
インプラント周囲炎の治療では、歯周炎の治療と同じように、非外科処置や外科処置でインプラント周囲のプラークを取り除きます。プラークがインプラントのネジ山に付くと取り除くのが非常に難しいため、外科処置を行ってもプラークを取り切れず、治癒しない場合があります。そのため、インプラント治療を受けたらインプラント周囲炎にならないよう予防に努めることが大切です。

02 歯肉炎



プラークが付着し、歯肉は赤く腫れて、出血があります。
歯周ポケットは浅く、レントゲン検査で骨の喪失はみられません。

10 インプラント周囲粘膜炎



プラークが付着し、インプラントの周囲から出血があります。
レントゲン検査で骨の喪失はみられません。